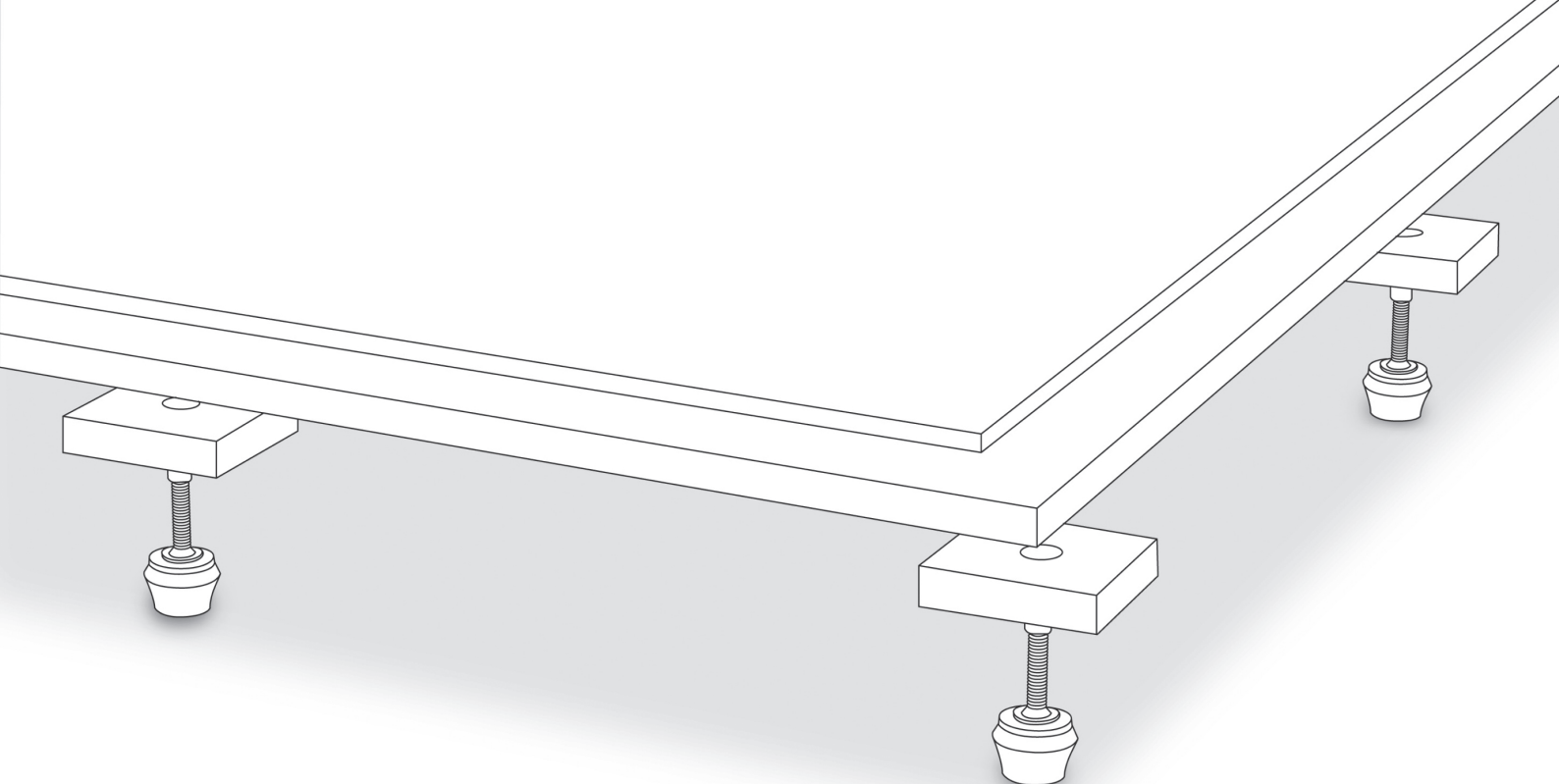




BARRIERLESS FLOOR

取扱説明書

注意! 構成材を施工できる床版は以下①～③とし、これ以外の床版上に施工をする際は、施工の可否を含め、仕様と方法を設計者と協議の上決定する事。

- ① 剛性を確保されたコンクリートスラブ（共同住宅等）
- ② 剛性を確保された木質系床組み（戸建住宅等）
- ③ ①又は②と同等の剛性と判断できる床組み

下地施工後に重量物（制振材、石膏ボード、家具等）を搬入する際は、絶対に下地破損の原因（落としたり、投げ入れたり、1箇所集中して仮置きする 等）になるような搬入は実施しないこと。

目安：静置にて150kgf/m²以下

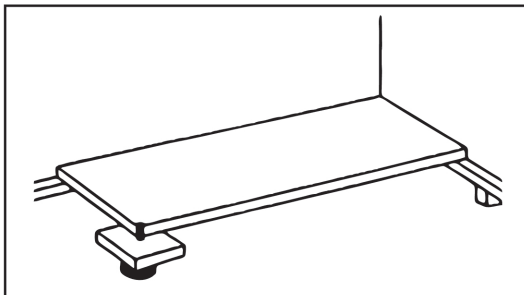
ホルムアルデヒドへの配慮について

当社の床下地製品は、ホルムアルデヒドの放散量が平均0.5mg/L以下のものを使用していますので、廻りの材料も放散量の低い材料を使用してください。

KIRII

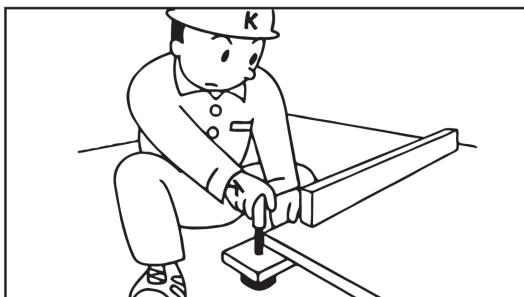
作業手順

1. 基準ベースパネルの敷込み



- 1枚目のベースパネルを際根太又はK根太上に壁から5mm～15mm程度の隙間をあけ、敷込んで下さい。

2. 基準レベル出し



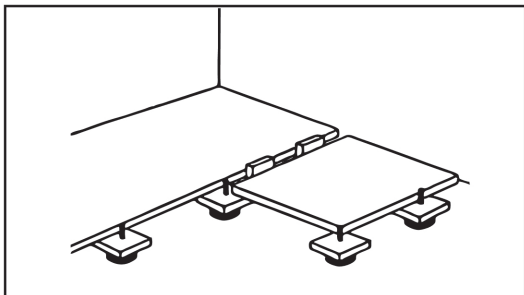
- 水平器を使い短手方向のレベルをプラスドライバーで調整します。

3. 床伏せと支持脚の取付け (1)



- パネル中間部に458mm※1ピッチ以内で支持脚を取付け、定規またはパーティクルボードの端材にてレベル調整します。

4. 床伏せと支持脚の取付け (2)

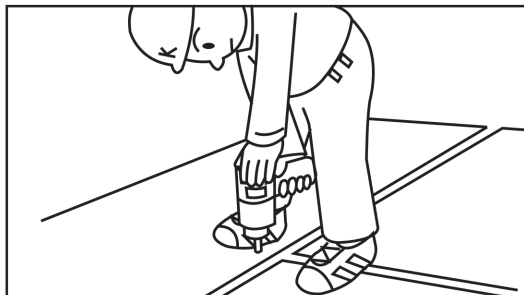


- パネルの敷き込みはレンガ貼りとします。目透し部分はスペーサーを使用します (12mm程度)。レベル調整は 2. 3. に従って行なって下さい。

※1 「バリアレスフロア-KK」の場合611mmピッチ以内

※2 「バリアレスフロア-KK」の場合25mm以上

5. 支持脚とベースパネルの固定



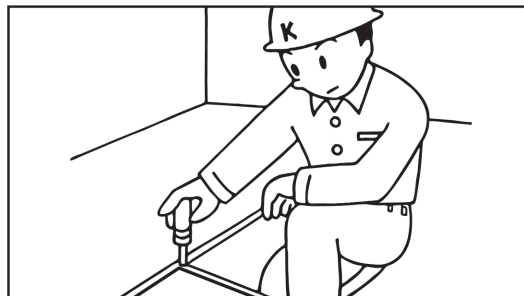
- ベースパネル敷込み完了時に釘またはビスで、支持脚とベースパネルを固定します。
- 固定する支持脚上の床パネル上にしっかりと体重をかけながら固定して下さい。

6. レベルの確認及び点検



- 水系、レベルレーザー等を使用しレベルの確認を行ってください。(目安=3列ごと)
- ベースパネル敷込み及び支持脚固定完了後に床全体を歩行し、支持脚の浮きの有無を確認し、浮きがある場合は再調整してください。

7. 接着剤の注入



- 支持脚ボルト頭部に接着剤を注入します。必要に応じて目透し部分にガムテープを貼り、養生を行なって下さい。また、ガムテープは現場支給願います。

⚠ 注意

- ベースパネル施工後に重量物 (仕上材、制振材等) を落としたり、投げ入れたり、1ヶ所に集中した仮置き等をしないで下さい。ベースパネルや支持脚等の破損原因となります。目安:150kg/m²以下。
- ベースパネルを濡らすと反りの原因となり、施工精度低下の原因となりますのでご注意下さい。
- 重量物を置く事が想定されるスペース (目安:200kg/m²以上) には、敷板や支持脚を追加して重量を分散するよう補強して下さい。
- 支持脚や捻張合板を固定する接合材 (釘、ビス等) がベースパネル等を貫通する長さの場合は、その下の配管等を傷つける事が無いように注意して施工して下さい。
- SD-6、D-6、K-6、M-4支持脚固定用ビスは、支持脚固定の際にパネル受けブロックを貫通しますので、その下部に配管等が来ないように支持脚を配置して下さい。
- ベースパネルはパーティクルボード (JIS A 5908 18M 又は Pタイプ F☆☆☆☆) 厚さ20mm※2以上を使用して下さい。

